

# ~未来の平和のために、沖縄戦や戦後史を語り継ごう~

【問】総務課 ☎889-4415

**【南風原町民平和の日】**  
1946年10月12日、戦後の復興業務が再開されました。本町では、全ての人々が平和で豊かな生活が送れるまちづくりを願い、復興へと歩み出しました。10月12日を「南風原町民平和の日」と制定しています。

沖縄戦について語り継ぐ人が年々少なくなっていますことを知り、今後は私たちが歴史をしつかり学び、語り継いでいかなければならぬ」と話す生徒たちは、戦争体験者や平和ガイドから話を聞くなど、これまで積極的に平和について学びを深めています。

平和委員会の生徒による平和学習の発表が行われました。

「沖縄戦について語り継ぐ人が年々少なくなっていますことを知り、今後は私たちが歴史をしつかり学び、語り継いでいかなければならぬ」と話す生徒たちは、戦争体験者や平和ガイドから話を聞くなど、これまで積極的に平和について学びを深めています。

参加者にとっては若い世代から学びつつ、改めて平和について考える貴重な機会となりました。



活動する際に私が大切にしてきた3つの視点  
・よそもの…外からの視点で考えること  
・わかもの…頭を柔らかくすること  
・ばかもの…夢中になること

本町兼城の藤原政勝さん(83)が、内閣府の2023年度「エイジレス章」に選ばれました。同章は年齢にとらわれず、自由で生き生きとした生活を送る人や団体に贈られます。10月18日には町役場にて伝達式が行われました。

藤原さんは、「南風原平和ガイドの会」の事務局長として本町の観光及び地域活性化に尽力されてきました。最近では町老人クラブ内に「ノルディックウォーキングサークル」を設立し、地域の仲間づくり、健康新規に活動を支えてくれた方々への感謝の思いと手伝いに専念したい」と述べられました。

## いつまでも柔らかい頭で！ 藤原さん、エイジレス章受章

【問】保健福祉課 ☎889-4416



## 南風原町長杯少年野球秋季大会



10月21日、22日に第128回南風原町少年野球秋季大会(第25回南風原町長杯)が黄金森公園野球場を主会場に開催されました。大会には町内の8チームが参加し、「新川ダイヤモンズ」が見事優勝、「南風原スターズ」が準優勝しました。

赤嶺正之町長の始球式で始まった今大会は、1回戦から熱戦が繰り広げられ、選手たちは日頃の練習の成果を随所に發揮し、全力プレーで会場を盛り上げました。

# 第29回南風原町子ども平和学習交流事業

子ども平和学習交流事業は、戦争・平和・差別・人権を学習の柱に、町内の小学校6年生が様々な出会いや交流を重ね、仲間とともに学び、視野を広げていくことを目的とした事業です。1994年にスタートし、これまで事業に参加した児童は300人を超えます。



愛樂園納骨堂

ちが収容、隔離された愛樂園について学びました。愛樂園で亡くなつた人たちの眠る納骨堂を見て、故郷にも帰れなくて、家族とは一度と会わない約束をされた苦しみや悲しみが伝わってきました。

(翔南小 宮城志帆さん)

6月から学習が始まった子ども平和学習交流事業、7月に県内研修、3泊4日の県外研修(広島・京都)を行い、学んだことをまとめて10月の報告会で発表しました。子どもたちが学習を通して感じたこと、考えたことの一部をご紹介します。

● 愛樂園交流会館(屋我地島)

(翔南小 古堅由夏さん)

ハンセン病をわずらつた人たちが収容、隔離された愛樂園について学びました。愛樂園で亡くなつた人たちの眠る納骨堂を見て、故郷にも帰れなくて、家族とは一度と会わない約束をされた苦しみや悲しみが伝わってきました。

6月から学習が始まった子ども平和学習交流事業、7月に県内研修、3泊4日の県外研修(広島・京都)を行い、学んだことをまとめて10月の報告会で発表しました。子どもたちが学習を通して感じたこと、考えたことの一部をご紹介します。

● ウトロ平和祈念館(京都府)



● 堀川高校との交流学習会  
(京都府)



堀川高校との交流会では、どうしたら差別や偏見を無くすことができるのかについて考えました。人をさけたり、相手を無視したりすることも差別や偏見になると知り、自分達も知らない間には偏見は「こわい」などといった自分の考えから起るから、まず自分が大変、などの意見が出ました。

(南風原小 野里斗愛さん)

子どもたちはこれから研修で学んだことについて改めて仲間と話し合い、報告書にまとめます。南風原文化センターでは過去の報告書を読むことができます。閲覧希望の方は南風原文化センター(☎889-7399)まで。

私が今できることは限られていて、すぐに核を無くすなんてことはできないけれど、私はできることをしたいなと思います。まずは原爆のせいで生きられたはずの明日が来なかつた人もいる、そのことを心にきざみながら1日1日を大切に生きようと思います。

(北丘小 工藤侑結さん)

● 広島原爆について